

試験研究費助成対象の代表者ら＝つくば市寺具



ものづくり支援

助成先6件決定

広沢技術振興財団

広沢技術振興財団（つくば市、広沢清代表理事）は県内のものづくり技術開発を支援するため、本年度の試験研究部門6件の助成先を決定した。助成は2007年に始まり今回で18回目。今回の助成総額は1200万円。

助成は県内に拠点のある企業などと研究者が対象で、31件の応募があった。つくば市寺具の広沢ホールで10日、贈呈式が開かれた。広沢代表理事も同席し、各代表者に助成金の目録が手渡された。

本年度の助成対象は次の通り。

製造業における設計・時系列データ・制御を統一的分析するAIプラットフォーム開発のエイソス（河尻理恵子社長）▽アミノ酸・糖・有機酸の安価で新しい簡易測定手段「比色測定ビーズ」の製品化及びスマートフォンによる数値化測定用WEBアプリ開発のエンザイム・センサ（目下部均社長）▽再研磨困難なCBN切削工具に代替可能な新規の難素材用超耐熱超硬度サーメット工具の開発の産業技術総合研究所製造基盤技術研究部門（村上敬上級主任研究員）▽布状スピーカーの応用による静適空間形成システムの開発のセンシアテクノロジー（大西啓宏社長）▽産業応用に向けたステンレス鋼NEGコーティング技術の開発の日本原子力研究開発機構原子力科学研究所神谷超高真空技術開発ラボ（諸橋裕子技術副主幹）▽磁気応答性機能材料を用いた柔軟な触覚センサの表面積化とソフトウェア基盤の構築のFabSense（皆川達也社長）。